

令和7年度 学校経営計画・学校評価

■4月8日(火)提出

■10月2日(木)提出

■3月13日(金)提出

学校番号	39	大方	高等学校	課程	通
------	----	----	------	----	---

高知県の教育の基本理念	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	スクール・ミッション	様々な生活スタイルや学習のニーズを持つ生徒に対応し、主体性や社会性を育成するとともに、生徒一人一人の多様な進路実現を図る。 生徒の多様な背景やニーズに応じ、生徒が自分のペースで目標に向かってチャレンジできる環境のもとで、生徒の主体的に取り組む力を養い、社会的に自立した人材を育成する。
スクール・ポリシー	【アドミッション・ポリシー】(入学者受け入れ方針) ○高校卒業に対して強い意志をもった生徒。 ○前向きに学習に取り組もうとする生徒。 ○自他を尊重し、違いを認めることができる生徒。 ○基本的な生活習慣が身に付き、ルールを守れる生徒。	【カリキュラム・ポリシー】(教育課程の編成・実施方針) ○学校設定科目「トレーニング」で基礎学力の定着と向上を図る。 ○個々の学びのペースと個々の進路希望に応じた進路指導を行う。 ○学習内容の理解が進むスクーリング(面接指導)を展開する。 ○学習意欲と学ぶ力を向上させるレポートの作成と添削指導を行う。 ○特別活動の中で、生徒が関わり協働できる機会を設定する。	
	【グラデュエーション・ポリシー】(育成を目指す生徒の資質・能力) ○学ぶ意欲と、自己の目標をみつけようとする意欲を育成します。 ○社会で生きるために必要となる基礎学力とコミュニケーション力を育成します。 ○社会に適応できる知識と視野、自己を見つめ将来を見通す力を育成します。 ○多様な価値観・個性を尊重し、社会に適応できる力を育成します。 ○社会的・職業的自立に必要な勤労観や職業観を育成します。		

学校関係者評価	
【学力の向上】	評価【 B 】
関わりが少ない中での指導の為、難しい面があるが、引き続き取り組んでいくことが必要。また校内研修は回数増は良いが、内容を充実したものにすることが大事である。学習の定着度やテストの正答率や誤答問題の傾向等をより分析し、次の指導に生かしていくことを大事にしていくことが望まれる。	
評価【 B 】	
生徒個人によって向上させる社会性は様々で、指導も様々になってくると思われるが、教員間で意見交換をしながら、引き続きの具体的な支援の手立てを望む。地域活動への参加は微増であるが、さらに参加率の増加に向けた取り組みの工夫が大事である。	
【チーム学校】	評価【 A 】
生徒のほとんどが、この学校に来てよかったと思っている。良い取り組みが展開されている。生徒の育成は、学校以外の面にも大きく影響するので、困難なことも生じると思われるが、引き続きの取り組みを進めてほしい。超過勤務の前年度比減は良いが、ワークライフバランスをとりながら、教員の主体的な学びと専門性や幅を広げる取り組んでいくことが必要。	

(評価)A: 目標を十分に達成 B: 目標をほぼ達成 C: やや不十分 D: 不十分

重点項目	育成を目指す資質・能力【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
学力の向上	★確かな学力 ○基礎となる知識・技能 ○思考力、判断力、表現力 ○生涯にわたって学び続ける意欲 ★自己の将来とのつながりを見通した学び ○社会の形成に主体的に参画するために必要な資質・能力 ○キャリアデザイン力(やりぬく力)	★学力と将来のための学び ①予習率の上昇 R7年80%(R6年76%) ②自主学習1日1時間(週5時間)以上55%(*1日30分含めた場合は75%) ③特別活動の出席率の上昇 R7年60% ④総合探究の出席率維持 R7年度90% オリジナルアンケート ⑤目標に向けて努力できる(R6年92%)維持 ⑥最後まで考え行動できる(R6年93%)維持	①②LHや授業での啓発(予習・出席について) ①②学習指導改善に向けた校内研修(レポート・授業等) ①②添削の充実(レポートの早期返却) ①②ICTを使った学習方法の研修会 ④社会を意識する内容を総合探究で設定	B	①②LHや授業で予習・出席について啓発を重ねた。 ①予習率81%(アンケートでは78%) ②自主学習1h/日50%(30分/日68%) ①②指導改善のための校内研修(3回実施) ①②レポート早期返却を一部科目で試行。生徒評価は良い。 ⑤目標に向け努力できる92% ⑥最後まで考え行動87%	①②早期返却科目8科目の実践と分析 ①②通信制におけるICT利用動向(校内研修) B	①予習率 前後72% ↓4p(アンケート80% ±0) ②自学1時間超/日: 前後46% 30分超/日: 前65% ①②校内研修・協議 7回実施 ③特別活動の出席58% ↑8p ④総合探究の出席80% ↓9p ⑤目標に向け努力 前後92% ±0 ⑥最後まで行動 前後87% ↓6p	・教材や添削・評価方法などについての研修や協議を進めていく(継続)。 ・生徒への啓発活動(継続)
	社会性の育成	★豊かな心、多様性・包摂性の尊重 ○豊かな人間性・道徳性・社会性 ○他者への思いやり(地域・社会貢献、ボランティア活動等も含む)	①スクーリング出席率の維持 R7年80%(R6年82%) ②特活の出席率の上昇 R7年60%(R6年50%) 県オリジナルアンケート ③地域(ボランティア)活動の参加60%(R6年51%) ④違いを理解しようとする95%(R6年93%)	①スクーリングでのペア学習 ②特別活動の活用 ①スクーリング日の教員の声掛け活動 ④サポステとの連携による個別指導	A	①スクーリング出席率72% *複数の長期欠席が大きく影響 ②特別活動(新入生歓迎会・校外研修)で生徒間の交流ができた。 ②参加数は例年並み。 ②特活出席率74% ③地域活動への参加43% ④違いを理解しようとする95%	②③秋季の校外研修の実施(地域ボランティア活動兼ねる) ③就業(6~7割)に加えての地域活動参加はハードルが高い。社会貢献としての就業と合わせて捉えることが適切。 ①④サポステとの連携	①スクーリング出席率 前後73% ↓9p *長欠生(小中登校経験無含む)が複数。 ②特活出席率58% ↑8p ③地域活動 前後48% ↓3p (+就業率65%) ④違い理解 前93% 後89% ↓2p
取組項目	地域協働学習 ○生徒の社会的自立・社会参画に必要な資質・能力の育成 ○地域・関係機関との連携	県オリジナルアンケート ①地域や社会の為できる事を考えている80%(R6年80%) ②地域や社会の情報を得ている85%(R6年85%)維持	①②職業や社会を意識する内容の設定(総合探究・家庭科・保健体育・公民科等) ①特別活動での協働的活動の活用	B	①②主権者講座・家庭・保健・公共で社会を意識する内容を学習。 ①②総合探究での仕事・職業講座 ①地域や社会の為できる事を考える78% ②地域や社会の情報を得ている81%	①②教科担当者間での内容共有を進める。 B	①社会の為できる事を考えている 前後69% ↓11p ②社会の情報を得ている 前後81% ↓4p	・教科間連携を進め、教材作りや学習効果の向上に生かす。 ・特別活動では、協働的な場面づくりを意識する。
	教科横断的教育	【取組のねらい】 ○学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成 ○各教科の学びを実社会での課題発見や解決に結び付ける力の育成	県オリジナルアンケート ①言語活動の機会確保(自学・授業・特活)(考える・話し合い・発表の機会)75% ②実社会での課題発見(社会問題に対する行動変化)80%	①特別活動の企画会議の設定 ①学習指導の校内研修(月1回) ①言語活動を促進する(短答式でない)出題 ①情報収集型や問題解決型の出題	B	①特別活動の企画会議(常時) ①学習指導の校内研修(5回) ①言語活動を促す出題(実践中) ①問題解決型の出題(実践中) ①考える・対話・発表の機会75% ②社会問題に対する行動変化81%	①校内研修の継続 ①言語活動を促す出題(継続) ①校内研修で、出題について共有	①言語活動機会 前後71% ↓4p ②社会問題への行動変化 前後73% ↓6p B ・校内研(学習)5回 ・社会性を高める機会を増やす意識を持って授業・行事実践した。

チーム学校	取組のねらい【P】	現状と目標(評価指標)	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	見直しのポイント【A】	
チーム学校	★学校の魅力化・特色化(学習の充実による振興) ○多様な生徒が学べる学校 ○個々に応じた履修指導(進路指導) ○自学による主体性と学力の向上	県オリジナルアンケート/学校評価アンケート ①履修指導と進路指導に満足: 9割以上 ②意欲的な自学への取組み: 8割以上 ③通信制のあり方研究の促進(校内研5回) ④学校運営協議会の実施(2回)	①情報共有と情報共有をもとにした履修指導 ②レポート添削の充実(早期返却の実践と検証) ③通信制のあり方勉強会の開催 ④学校運営協議会の実施(2回)	B	①支援会での情報共有 意欲的な自学の取組み80% ②レポート早期返却(2科目) 前期の分析を経て8科目へ ③校内研(5回実施) ④学校運営協議会の実施(2回)	①早期返却科目の拡大 ①履修指導・進学指導に満足度の評価(学校評価) ③通信制のあり方・方向性についての校内研修 ④運営協議会(2回目・3回目)	①進路指導への満足: 生100%、保94% ②意欲的な自学への取組み: 100% ③通信制のあり方研究(校内研7回) ④学校運営協議会の実施(3回) 通信制の学び(レポート添削・評価など)について研究・協議・実践を重ねた。定通再編計画を念頭に通信制について考えることができた。	・通信制研究を進める(継続)。 ・教科研究・教科間共有を進め、教材開発や指導改善に生かす(再編計画を見据える)(継続)。
	★教職員の倫理観の堅持 ○不祥事防止対策の徹底 ○よりよい職場風土づくり ○教職員のメンタルヘルス ○不祥事発生時の適切な対応	不祥事防止のための実践継続 ①校内研修の実施3回/年 ②不祥事防止の取り組み ・不祥事防止委員会の実施12回 ・声掛け、チェックリスト、複数チェック ③風通しを良くするための親睦会2回	①校内研修の実施 ②声掛けと掲示による防止対策 ②チェックリストの実施 ②メール配信等の複数名による確認 ③親睦会(教員レク)の企画と実施	A	②声掛け・チェックリスト実施 ②メール配信の複数者確認 不祥事防止委員会の実施7回 ③親睦会(教員レク)の実施	②不祥事チェックリスト2回目 ③校外研修の事前教員研修(昼食込み・親睦も兼ねる)	①校内研修の実施3回/年 ②不祥事防止委員会の実施12回 ・声掛け、チェックリスト、複数チェック ③親睦会(全定通教員レク)1回 ③校外研修の事前研修兼食事会	・組織の風通しを良くすることや、同僚とのコミュニケーションの機会として研修や親睦会を設ける(継続)。
	★長時間勤務の解消 ○職員の健康の維持増進を図る。 ○ワークライフバランスを整える。 ○職務の質を高める。	①長時間勤務の低減(前年度比10%減) ②情報共有の促進と会議の効率化 ③年休と夏期休暇の取得(各5日以上) ④分掌をまたいだ業務協力	①最終退勤時間を意識した働き方推進 ②会議資料の事前配付等による時間短縮 ②会議の進行方法の改善	A	①6か月間の超過勤務者の延数20%減。 ②会議資料の事前配布による会議の時短(実践中) ③夏期休暇全員5日取得	①退勤時間の意識をもつ(継続) ①朝の登校指導の一部削減 ①放課後の体育館と自習室の使用時間の見直し ②会議前の資料配付(継続)	①超過勤務時間: 約26%減(前年度比) ②③会議等の業務効率・進行は良い。 ③夏期休暇全員取得 A *R6年度は新教科書用の教材作り、転入教員等による教材作りが超勤の一因となった。	・R8年度は、教科書改訂による教材づくりの業務が予想される。 ・業務の優先順位と必要性の検討(継続)。